

苗代神社社殿・社務所竣工記念碑

延喜式内苗代神社は、白鳳年間（六五〇〜七二〇）伊賀の国敢国神社から少彦名命を勧請、さらに室町時代・山城の国北野より天満宮を相殿に勧請して奉祀したと伝えられています。

以後、繩生の氏神様守護神として長い歳月を経て今日まで受け継がれ護持されてきました。修復前の本殿、拝殿は、祭神・菅原道真公の一千を記念して明治三十五年に新築再建され、拝殿は大正五年に改築されたと伝えられています。その後、社殿は老朽化が甚だしいため、平成の大事業として社殿の修復と社務所の改築工事を計画しました。平成十四年「修復委員会」を設立し、募財につとめ多くの氏子崇敬者の貴いご協賛をいただきました。工事関係者各位のご尽力により、このたび本殿、拝殿の修復、社務所の改築、神馬舎、参道等の整備が竣工しましたことは、誠に慶賀の至りてあります。

ここに氏神様の弥栄と、氏子崇敬者の安寧を祈念します。

平成十七年九月吉日

苗代神社修復委員会